

市役所職員・法務省職員・民間協力者 を交えた研修実施報告

～「支援者の相互理解」から始める「地域理解促進」～



相模原市の概要

位置：神奈川県北部、東京都及び山梨県と接している

面積：328.91 km²

緑区：253.93km² 中央区：36.87km² 南区：38.11km²

人口：724,098人（令和6年6月時点）

※神奈川県では3番目の政令指定都市

※令和6年度は市政70周年



第二次相模原市再犯防止推進計画①

- 令和6年3月に策定
- 相模原市地域共生社会推進計画(第5期地域福祉計画)に包含する形で策定(第6章部分)

【考え方】

- 「地域の理解促進」と「行政や関係機関等による支援」を軸とする
- 支援にあたっては「犯罪をしたか否かに関わらず」に「支援を必要としている市民」として実施することが重要

※基本的に市役所側では出所者等か否かは分からない



第二次相模原市再犯防止推進計画②

○計画は策定できたが、課題が浮き彫りに

- 「更生保護とは何か」だけでなく、民間協力者やその取組の認知度が低い
- 「市役所」としての業務は幅広いが、担当者が全てを知っているとは限らない。むしろ、業務の専門化・細分化は進む一方

※「自分の分野は犯罪とは関係ない」と言われたことも

→「地域理解」の前にまずは職員から

→とはいえ、予算やノウハウもないので、

横浜保護観察所に相談、ご協力いただくことに



研修の経緯①

(令和5年7月頃～10月頃)

- 横浜保護観察所と相談をしながら企画立案
 - 当初は「職員向け」研修として検討
→保護司等の民間協力者を加えるとお互いの学びが
深まるのではないか、という話に
- ※職員の参加者数が読めない上、初の試みであったため、
更生保護女性会員やBBS会員への参加依頼については
見送った



研修の経緯②

(令和5年10月～12月頃)

- 民間協力者に加え、法務省職員も交えて実施してみてはという提案があり、横浜保護観察所より声かけをしていただく(以降は本市で調整)
- 上記と並行して、本市保護司会協議会に相談、企画について内諾を得る
- 職員向けには関係課(※)の出席を必須、その他希望者も受入可能という形で募集

(※)本市再犯防止推進ネットワーク会議構成課及び
生活保護・障害者支援窓口担当課



【参考：相模原市再犯防止推進ネットワーク会議】

1	横浜保護観察所
2	相模原公共職業安定所
3	神奈川県地域生活定着支援センター
4	相模原市保護司会協議会
5	相模原市更生保護女性連盟
6	相模原地区BBS会
7	相模原市社会福祉協議会
8	一般社団法人相模原ダルク
9	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者支援課
10	健康福祉局地域包括ケア推進部精神保健福祉センター
11	こども・若者未来局こども・若者支援課
12	都市建設局まちづくり推進部住宅課
13	教育局学校教育部青少年相談センター
14	健康福祉局生活福祉部生活福祉課

研修の内容①

1. 講義（更生保護制度の概要）

- 講師は横浜保護観察所職員
- 「更生保護とは？」という入門的な内容

2. 事例検討（少年事例・成年事例1件ずつ）

- 4グループに分けて実施（グループは指定）
- 時間の都合で検討の発表は
各グループどちらか1事例のみ、
発表する事例はあらかじめ指定



研修の内容②

3. 研修実施にあたって気を付けたこと

- 単なる座学ではもったいない

→市役所職員と民間協力者の交流だけでなく、
法務省職員と交流する機会は貴重

- 出席者の参加型の学習を促す

- 事例検討の発表に関し、コメントはするものの、
「この対応が正解」とはしない

※実際の業務も同様



実施結果①

受講者：33名

- ① 本市職員 23名
- ② 法務省職員 5名
- ③ 保護司 5名

※市職員は領域・年代も分かれるように配置

※法務省職員（東京矯正管区、横浜保護観察所、横浜刑務所、よこはま法務少年センター）と保護司は各グループ均等に配置

受講者アンケート

→受講者の大半から回答があり4段階評価（平均値）で高評価

	講義	事例検討
満足度	3.85	3.59
時間	3.61	3.53
進め方	3.79	3.60
理解度	3.54	3.56

※満点は4.0



実施結果②

4. 研修の効果(アンケート結果より)

【市職員】

- ・「更生保護とは何か」を知ることが出来た
- ・ 普段接する機会が少ない「法務省職員」や「保護司」の取組を知ることができた
- ・ 外部だけでなく、他課が行っていた支援を知ること
で「支援の引き出し」を増やすことにつながった



実施結果③

【法務省職員】

- 現場の職員が日々どのような考えで支援を行っているのかを知る機会になった

【保護司】

- 行政が実際にどのような支援を行っているのかを知る機会となった
- 支援を求める対象者がいた場合に「行政のどこに相談すればよいのか」を知る機会となった



まとめ

- 知識や制度として知っていたとしても、実際に話を聞くと「気づき」を得ることができる
 - 課題が複雑・多様化する中、「支援者同士の相互理解」は重要だが、日々の業務では交流の機会が少ないのでよい機会となる
 - 「地域理解促進」への啓発活動や民間協力者の活動に対する内部の理解を得やすくなる
- ※どの地方公共団体も予算や時間が限られていると思いますが、参考になれば幸いです。

